

京阪神 3 大学図書館の連携・協力活動

現場レベルのつながりをめざして

京都大学附属図書館 研究支援課長

富岡 達治

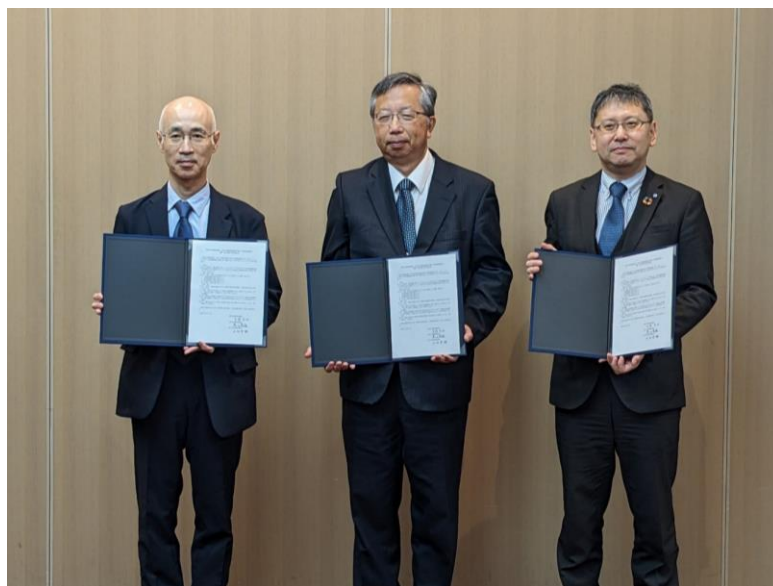
京都大学

KYOTO UNIVERSITY



京阪神3大学図書館の協定

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び
神戸大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定書
(令和5年6月22日締結)



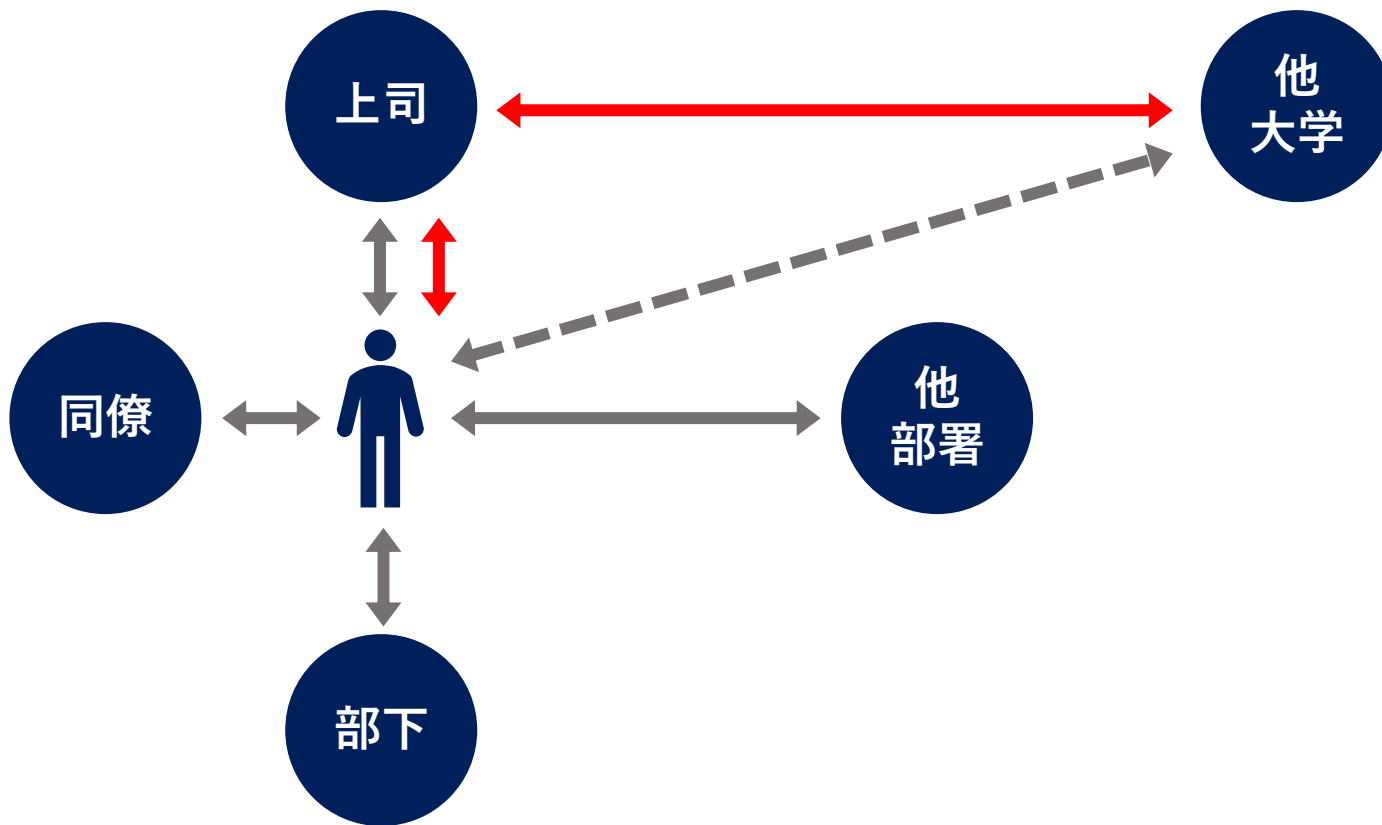
京阪神3大学図書館の協定とは

- 『オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）』が掲げる「大学図書館間の効果的な連携」のため、京阪神の3大学図書館（京都大学、大阪大学、神戸大学）が連携・協力するための協定
- 3大学の図書館職員が、現場レベルで交流・協働することにより、業務の省力化・高度化



業務の相談って、誰にする？

業務の相談って、誰にする？



「つながり」は、どう作る？

図書系職員の「つながり」？

- 関係団体の活動（国大図協, JUSTICE, JPCOAR etc.）
- イベント（地区助成事業, 図書館総合展 etc.）
- 研修（大学図書館職員短期研修, (同)長期研修 etc.）



役職が上がるほど、つながる機会が多い

現場レベルでもつながる機会を!

なぜ3大学で？

- 文科省 科学技術・学術審議会 情報委員会
「オープンサイエンス時代における大学図書館の
在り方検討部会」（令和4年2月～令和5年1月）
 - 論点の1つに「大学図書館間の効果的な連携」
- 3大学の特性
 - 近畿地区
 - 規模（大規模研究大学）
 - 組織（図書館単独での部課長制）

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び 神戸大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定書 (抄)

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館（以下「三館」という。）は、新たな大学図書館機能の実現に向けて連携・協力して取り組むため、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、三館が連携・協力し、オープンサイエンス時代に即した大学図書館機能を創出・展開するための活動を行うことで、三館のみならず国内大学図書館の充実・活性化に寄与することを目的とする。

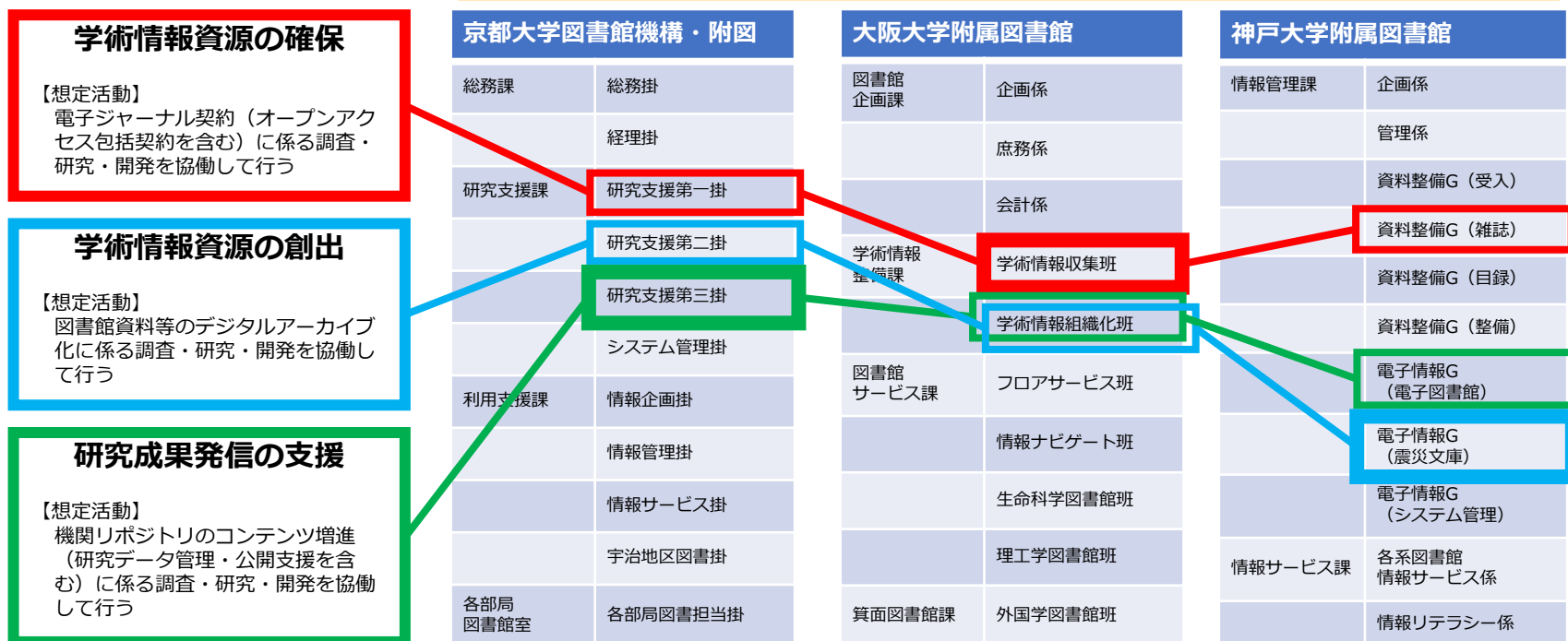
（連携・協力の内容）

第2条 三館は、前条の目的を達成するため、以下の事項について連携・協力する。

- 一 学術情報資源の確保に関すること ⇒ **電子ジャーナル関連**
- 二 学術情報資源の創出に関すること ⇒ **デジタルアーカイブ関連**
- 三 研究成果発信の支援に関すること ⇒ **機関リポジトリ関連**
- 四 その他、三館が必要と認めること

同じ業務の担当者をつなぐ

3館長ネットワークによる統括
幹事会：3部長、担当者会：担当3課長



コンセプト

- 業務ごとの担当者がまるで隣にいるかのように知恵を出し合える環境・関係づくり
- プロジェクトではなく友好協力協定
- 何をするかをあらかじめ決めない
 - ▶ 連携そのものが目的
- 各大学が似たようなことを進める必要があるとき、独力でまちまちにやるよりも協働、分担、流用
 - ▶ 文殊の知恵 + 省力化

どうつなぐ？

- コミュニケーションツール（Slack）を活用
 - ▶ 気軽にメッセージのやり取り
- 必要に応じてビデオ会議（Zoom）
 - ▶ リアルタイムの対話も重要

これまでの事例

- インボイス制度にどう対応する？図書館システムの改修は？
- DataCite DOI関連の請求ってどんな感じで来るの？
- 転換契約の著者負担の割合、金額はどう設定してる？
- データベースの提供元から、IP認証方式やめるって連絡が来た
- 2025即時OA義務化の報道出たね。Xでの反応もいろいろだね
- 今度、ウチで取り組む事業について意見交換のMTGしよう
- ○○という調査が来たね。こちらではこう答えるつもり
- etc.

展開事例（1）

「統合イノベーション戦略2023」対応策検討への参画

- 「2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現」に対する検討
 - ▶ 大学図書館が果たすべき役割は？
 - ▶ 2025年までに必要な準備は？
- 関係する図書館関係団体が協力して集中検討
 - ▶ JPCOAR運営委員会, OA推進タスクフォース
 - ▶ 国大図協 資料委員会 オープンサイエンス小委員会
 - ▶ **京阪神連携・協力活動**
- 公開ミーティング、情勢解説会の開催

展開事例（2）

大学図書館の本質的機能とオープンサイエンス時代におけるその表現についての検討

- 「京阪神版ライブラリー・スキーマ」の作成が目標
- 若手～中堅～管理職でWG（12名）を構成
- 連携・協力活動（3本柱）に理論的土台を与える

今後の展望

目立った成果はなくてよい



ちょこっと訊ける
ゆるいつながりを日常化する



ありがとうございました